

くまもと

402号

日本郵趣協会
熊本支部会報
2025.6



<大阪・関西万博の会場内に開設された郵便局で限定販売>

万博を訪れて

山本純雄

関西大阪万国博覧会を訪れた。5月7日のことである。この日のことは、きっと記憶に残そうと思っている。昭和の時代に日本で初めて開催された大阪万博以来2度目である。日本で、しかも同じ大阪で開催される万博に2度行くことは、一生のうちでもうあるまい。今回は空飛ぶ車など話題になったが、日本館で見た火星の石や、藻による未来社会の研究・開発は圧巻であった。

2025年（令和7年）5月7日。この数字を見てみると、偶然に自分のこととピッタリ合うからおもしろい。単なる2・5・7の数字合わせではあるが、私は22歳の時に大阪万博に行った。そして55年後の今年77歳で再び関西大阪万博に行く機会を得た。大阪万博の時のことは、アメリカの月の石や日本の太陽の塔が話題となったが詳細はよく覚えていない。当時撮った写真を見てこんなものだったのかと思うばかりである。その頃は就職後まもなくで、当然のことながら切手に注力することもなかったが、大阪万博にまつわる切手はどうであっただろうか。

その時は、以下のように3次にわたり特殊切手が発行されている。

1. 1969年（昭和44年）3月15日 「日本万国博覧会募金」単片2種
2. 1970年（昭和45年）3月14日 「日本万国博覧会記念（1次）」
単片3種、切手帳ペーン、小型シート
3. 1970年（昭和45年）6月15日 「日本万国博覧会記念（2次）」
単片3種、切手帳ペーン、小型シート

また、諸外国においても【図1】

1. リベリア：「万博会場と太陽の塔」
「歌手三波春男とフェスティバルプラザ」
 2. 北イエメン：「日本の伝統芸能」
 3. アラブ首長国連邦ラス・アル・ハイマ
「ビードロを吹く娘（喜多川歌麿画）」
- など、それぞれ日本の特徴を図案として取り上げた切手が発行された。

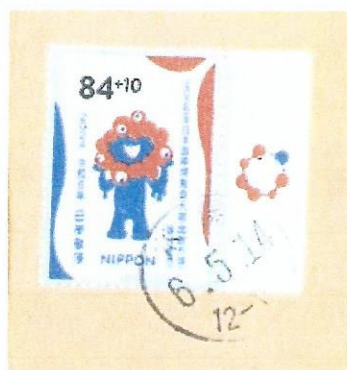
さて、関西大阪万博では、4月その開催に先立ち、寄附金付き切手（84円+10円）公式キャラクター「ミャクミャク」の図案2種

【図2】が発行された。



【図1】

そして今年、万博期間中、会場東ゲート及び西ゲート【図3】にそれぞれ開設された2つの郵便局では、記念切手・ハガキセット「85円フレーム切手10枚のシート【表紙】、『ミャクミャク』・『ぽすくま』・EXPO25のロゴが印刷されたポストカード各1枚」が発行されている。



【図2】

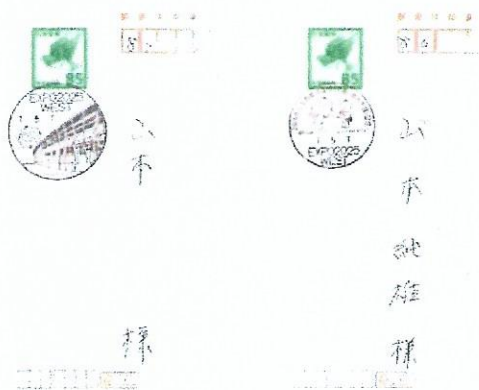


【図3】

その他、特殊通信日付印「大屋根リングと『ミャクミャク』」、小型記念通信日付印「『ミャクミャク』と『ぽすくま』」【図4】、丸形日付印の和文・欧文、ローラー日付印が使用されている。

このほかにも万博をめぐるいろいろな郵趣動向があると思われるが、ここでは入手体験の一部を紹介した。

万国博覧会を訪れる楽しみは、何ととっても現在そして未来の世界の可能性を体感することであるが、それとともに切手に親しむ者として万博にかかわる郵趣に触れることができることもまた大きな楽しみの一つではないだろうか。



【図4】



【拡大図】